

磯部道

磯部道の概要

磯部道は、宇治から志摩国と伊勢国の国境であった逢坂峠を経て伊雑宮に至る道。神宮を参拝した後、伊雑宮へ参る人々が歩いたほか、志摩地方からは主に天びん棒を担いで魚介類を運ぶ徒荷持かちにもちの往来が盛んだった。徒荷持は志摩地方で揚がった魚介類を、翌日の河崎の朝市までに届けるため、夜を徹して逢坂峠を越えたという。このほかにも磯部道は志摩の人々が伊勢に出る生活道だったが、明治の中ごろまでは人が通るのが精一杯の道だった。

明治26年(1983)に大改修され、さらに昭和40年にはバスが通れる伊勢道路が開通し、現在は磯部道の大半が伊勢道路に吸収されている。この伊勢道路には、2つのトンネルがある。1つは伊勢市側の起点にある五十鈴トンネルで、内宮から出発する磯部道が内宮の本殿近くを通るため、排気公害などを心配した配慮だと思われる。五十鈴トンネルを抜けると、島路川をわたり、島路山と呼ばれる神宮林



の中を道は進む。この神宮林では、300年後の遷宮用材を育てており、風致が保たれた自然豊かな森が続くが、歩道が狭いため散策には適さない。

もう1つのトンネルは、逢坂峠の下を通る志摩路トンネルで、このトンネルの入り口近くから、古い磯部道の上り口があり、逢坂峠へ進む。

逢坂峠は標高243メートルの小さな峠だが、「七曲がり」と呼ばれる急坂があり、ふだんは低い山々の間で暮らす志摩の人々にとっては、険しい峠道だった。うつそうとした杉林の中を進む一帯は、猿田彦の神が倭姫命やまとひめのみことと出会ったと伝わる「猿田彦の森」や、天照大神がお隠れになったという「天の岩戸」など神代の伝説が伝わっており、神秘的な雰囲気包まれている。また「天の岩戸」から流れる岩清水は、名水100選にも指定されている。

逢坂峠を下りると、志摩地方の水源となっている神路ダム沿いに至り、再び伊勢道路と合流する。この辺りにはかつていくつも茶屋があったという。この辺りからは地形もなだらかになり、歩きやすくなる。志摩市磯部町の恵利原を経て伊雑宮がある上之郷へ。伊雑宮は内宮の別宮で、志摩一の大社。毎年6月24日に行われる御田植祭は、日本三大御田植祭の一つに数えられている。



(1)恵利原 1

(志摩市磯部町恵利原)

※伊勢市内の磯部道は歩くのが危険なため、志摩市磯部町内より掲載します。

約 1500 m

磯部街道

深い木立に覆われ、昼間でもうっそうとしている。

天の岩戸への案内がある。

街道はダム湖の中に水没している。

神路本橋 1号橋

神路大橋 2号橋

神路ダム

神路橋

地図内凡例

- 道標など
- 常夜灯
- 神社・仏閣・城址など
- 地蔵など
- 句碑
- その他文化資産等
- まちかど博物館
- 博物館・資料館
- まちがえやすい分かれ道
- バス停
- トイレ



1 片枝の杉
樹林の南側の境道にある。



2 天の岩戸
滝祭りの岩屋ともいう。天照大神が岩戸隠れをした場所だといわれている洞窟。ここから湧き出る水は「名水百選」のひとつに選ばれている。



3 家建の茶屋跡のオシマザクラ
志摩市指定天然記念物



4 獅子岩
道路から見ると神路ダムの対岸にある。ダム湖につきだした大きな岩。



5 旧日向橋
現在の道の左側の低いところであり、草で覆われている。大正15年(1926)架橋。

(2) 恵利原 2

(志摩市磯部町恵利原～上之郷)

